

教科	音楽科	学年	第2学年	担当者	川崎美耶子
----	-----	----	------	-----	-------

【教科目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てると共に、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

【使用教科書・教材等】

・教科書（「中学生の音楽23上」教育芸術社・「中学生の器楽」教育芸術社） ・ワークブック（ミュージックスタディ）・アルトリコーダー ・ファイル

【学習計画】

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）	準備物
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> のびやかな歌声 「夢の世界を」「翼をください」 曲の構成と楽器の音色 「交響曲第5番ハ短調」 「フーガト短調」 日本の歌 「夏の思い出」 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい仲間と歌う喜びを分かち合うことができる。 ○姿勢、口の形、発声や響かせ方などの特徴を生かしてのびのび歌うことができる。 ○フーガやソナタなど曲の仕組みが理解でき、音楽の響きを味わうことができる。 ○歌詞と旋律の関係を理解して表現を工夫することができる。 	教科書 ワークブック アルトリコーダー ファイル DVD
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 合唱の響き 「合唱コンクール曲」 総合芸術 「オペラ：アイダ」 日本の伝統音楽 「歌舞伎と文楽」 	<ul style="list-style-type: none"> ○パートの役割を感じ取り、全体の響きに気を付けて合唱することができる。 ○仲間と共にひとつのものを創りあげることができる。 ○オペラの特徴を理解し、物語に基づいて創られた音楽やオーケストラと声とが生み出す豊かな表現を味わうことができる。 ○日本の伝統音楽の魅力に親しむことができる。 	楽譜 教科書 ワークブック アルトリコーダー ファイル CD
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> アカペラの合唱曲 日本の歌 「荒城の月」 「花の季節」 世界の諸民族の音楽 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の楽器の響きを感じ取って、表現を工夫することができる。 ○曲の持つ情緒を味わいながら歌うことができる。 ○世界各地の音楽に触れ、音楽や声の特徴を味わうことができる。 	教科書 DVD フラッシュカード ワークブック アルトリコーダー ファイル

【評価の観点と評価の方法】（通知票のつけ方）

評価の観点	音楽への関心・意欲・態度 20%	音楽表現の創意工夫 30%	音楽表現の技能 30%	鑑賞の能力 20%
評価の観点の趣旨	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を高め、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながらふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を伸ばし、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽が形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽に対する理解を深め、味わって聴いている。
評価の方法	毎時間の授業の様子 (音楽に取り組む姿勢) 定期テストと実技テスト	学習中の様子 実技テスト 定期テスト	学習中の様子 実技テスト 定期テスト	鑑賞中の様子 自己評価や感想文 発表内容・定期テスト

【授業の受け方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）

- 1、授業に必要な持ち物をしっかりそろえましょう。
- 2、歌を歌うときは、姿勢や発声法を意識し、のびのびとよい表情で歌えるよう頑張りましょう。
- 3、アルトリコーダー奏では、楽譜を読んだり運指の確認を粘り強く取り組み、音色を意識して演奏しましょう。
- 4、鑑賞では説明をしっかりと聞き、楽器の音色や作曲者の思いを考えながら聴きましょう。
- 5、合唱活動では、音程を早く覚えるためにパート練習に集中し、自分から声を出しクラスの仲間と協力してひとつのハーモニーを創りましょう。

【家庭学習の進め方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）

- 1、授業で学習した歌唱曲や器楽曲を自主的に練習しましょう。
- 2、自分のパートを覚えるために意欲的に練習しましょう。そして音程を早く覚え、のびのび歌えるようにしましょう。
- 3、実技テストに向けて、しっかり練習しましょう。
- 4、普段の授業では聴くことができない音楽がたくさんあるので、CDやテレビやインターネットを利用して、色々な音楽を聴きましょう。また音楽会に行く機会を大切に、音楽の美しさや授業で触れることができない感動を味わいましょう。